原っ子
学校だより No.24（通算67号）
令和５年９月２２日
小郡市立大原小学校
校長　山本貴澄　Tel 72-5500

今年度の重点目標「学び合い 助け合い やり遂げる集団づくり」
秋の交通安全県民運動実施中！飛び出し厳禁・道路横断時左右確認を！！

人権学習参観・学級分会　アンケート集約報告

アンケートへのご協力をありがとうございました。今後の人権学習や学級分会運営に生かしていきます。とてもよい学びの場になったというご意見をたくさんいただきました。これからもぜひ学校においでいただき、子どもたちのため私たちもつながり合いながら学んでいきましょう。アンケートの一部ですが、紹介させていただきます。

◇人権学習を参観されての感想

【１年生】
・１年生にわかる言葉で説明するということと、親自身があまり人権というものを普段から考えていないこともあり、子どもに理解させるのは難しいかもしれませんが、身近にあった出来事などからちょっとずつ話をしていけたらいいなと思いました。

【２年生】
・普段、子どものことでも、どうしても“よいところ”ではなく、“できていないところ”などの方に目を向け言ってしまうけれど、よいところもきちんと伝えていくことが大切だと実感しました。みんなよいところをお友達に伝えてもらって、本当にうれしそうでした。

【３年生】
・同じ出来事に対しても、人それぞれ感じる気持ちは違うこと。感じたことを伝えること。伝えることの大切さ、これは大人になってもずっと課題だと思うので、改めて親子でよく話したいと思いました。そして、家庭がそのよい練習場だと感じました。

【４年生】
・発表の時間が多かったと思うので、親子やグループで考える時間があってもよかったと思います。
・「おかしい」を指摘するだけで終わらないようにしていきたいのと、それぞれの考えや行動の責任は個人なので、「知らないふり」「見ないふり」は責められることではなく、価値観の相違であることにしないと、「たたいた本人」のみが「おかしい」のに、周りに「おかしい」を押し付けだすと考えています。

【５年生】
・今回の人権学習は、性の多様性の学習で、今まではあまり取り上げられていなかったと思うので、今回学習できたことは、子どもたちにとってとてもよかったと思います。まわりの友達が苦しんでいたら、ありのままを受け入れて理解できる人になってほしいと思います。

【６年生】
・いつの時代にも身近にある差別、それをおかしいと言えるグループに育ってほしいと思います。
・各学年に応じた学習で、子どもたちに人権について考えを深めるよい機会だと思いました。

◇学級分会に参加されての感想

【１年生】
・子に教えるためにも、親も学習していかなければいけないと思いました。
・みなさんのお考えを聞くことができて、よい機会でした。数を重ねていけば、よりワイワイとディスカッションできると思いました。

【２年生】
・身近にいろいろな悩みを抱えている方の存在を知って、自分の言動を振り返ってみよ

うと思いました。意外と無意識に言っていることがあるなあと思います。みなさんの家庭での様子などが聞けてよかったです。たくさんのよいところを見つけて伝えていきたいと思いました。

【３年生】
・部落差別など差別の内容については、深く知る必要はないと考えていましたが、学習する中で、多種多様な人、考え方があるということを知ることが大切で、それを受け入れる心の準備をしていて、それが大切だという気づきがありました。

【４年生】
・マルトリートメント（※)、とても興味深く、心当たりがある項目もあり、今後気をつけたいと思いました。
・人権は、一方だけを守るものではなく、みな等しくもつもの。環境の違いを埋めるのは、お金など課題があるが、「相手を知る」⇒「相手にとって自分ができることをする」シンプルでいいのではと思います。障がいが、国籍が、ジェンダーがとかは、個人の一部です。

【５年生】
・子どもにもしカミングアウトされたら、どうなるのかと考えさせられました。自分自身も子どもの悩みなどを全て受け入れられて話を聞けるようにしていきたいです。
・一口に差別といってもいろいろあるので、理解しているつもりでも無意識にしていないか、子どもに限らず大人もあるなと思いました。家に帰って、子どもと一緒に少しずつでも考えていけたらと思います。

【６年生】
・保護者、先生で人権についての学習体験や思うこと、いろいろな意見を交わすことができてよかったです。
・いろんな方の意見を聞ける場で、自分の考えを見直す機会になりました。

◇日常生活で人権に関わることについて

・部落差別がつくられたきっかけの一つに為政者にとって、対立してもらった方が便利だから、都合がよいからという思惑があったと思います。そして、部落差別に限らず、差別を支える普通の人が、わたしを含め、たくさんいると思います。部落問題、教えない方がいいという意見も多いようですが、今の世の中のように、不安な要素が増えると差別をつくって、自分はまだましと安心したくなるのかもしれません。そして、背景を知らないと、偏った情報を真に受けてしまう怖さがあると思います。
　私がネット情報で知る男女差別と言われるものも（医者や政治家など)、身近な話になると、職場で力仕事は男性がしてくれるし、子どもに熱が出たら、母親だという理由で帰らせてもらえる。私にとっても都合の良いところがたくさんあります。
ただ、ニュースで、信じられないような差別があることも知っています。まだまだ、知らないことばかりですが、それを子どもにどう伝えるか、日々考えています。子どもは、怖いこと、いやなことは知りたがりません。淡々と怖がらせず、事実をどう伝えるか。あなたの人生はあなた次第で、どうにもできるんだよ！と前向きなことを伝えつつ、でも実際にある人間の弱いところをどう伝えるか考えていきたいと思います。そして、「みんなちがってあたりまえ」ということも日々の生活の中で伝えたいと思います。

・人権とは毎日関わっていると思います。自分自身、パートナー、親子、兄弟、職場など・・・。人との関わりがあれば、どこにでも人権があるので、誰かの大切なもの、安心をおびやかさないように気をつけていきたいです。

・知らず知らずに差別しているところもあると思ったので、自分自身が知って伝えることが必要だなと思いました。

・差別について、学びの場を設けてくださっていることに感謝申し上げます。将来に、とても大切なことだと思います。親も学ぶ機会、素晴らしいと思います。

※マルトリートメント：不適切な関わり。特に、大人の子どもに対する不適切な養育や関わり方をいい身体的・性的・心理的虐待とネグレクトはもちろん、子どもを怒鳴ったり、叩いたり、つい感情にまかせて親の気分で子への態度を変えたりするなどの行為も含まれる。